

形成外科学

ナンバリング M4-S1-D18

責任者・コーディネーター	形成外科学講座 櫻庭 実 教授		
担当講座・学科（分野）	形成外科学講座		
担当教員	櫻庭 実 教授、本多 孝之 特任准教授、小野寺 文 助教、三橋 伸行 助教、山崎 友和 助教(任期付)		
対象学年	4	区分・時間数 (1コマ2時間計算)	講義 11コマ 22.0時間
期間	前期		演習 0コマ 0.0時間 実習 0コマ 0.0時間

・学習方針（講義概要等）

形成外科学は、外傷、腫瘍、先天異常など様々な要因で生じた組織欠損や変形、機能障害を、機能的かつ形態的に修復することで患者のQOL向上を目指す、外科学の一分野である。その対象領域は初期臨床研修医がしばしば遭遇する四肢、顔面の軽微な外傷や小腫瘍から、Microsurgeryを用いた組織移植による再建外科や頭蓋顎顔面の骨切りを伴うCraniofacial Surgeryといった難易度の高い分野まで幅広い。本講義においては、臨床に役立つ局所解剖と創傷治癒の基礎について学習するとともに、疾患の病態、診断、基本的治療法から顕微鏡下手術までを幅広く学習する。
課題が与えられたグループは、該当する講義までにプレゼンテーションを作成し、発表の準備を行っておくこと。

・教育成果（アウトカム）

形成外科に関連する疾患の病態とその診断法、治療法を学ぶことにより、一般の臨床医が有すべき形成外科学の基礎知識、ならびに国家試験コアカリキュラム関連項目の知識について説明できる。また、形成外科の疾患を学ぶことにより、疾病や障害を有する患者への適切な配慮と接遇態度について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	形成外科における対象疾患の範囲と形成外科的診療を説明できる。
2	創傷治癒過程を理解し説明できる。
3	皮膚縫合や局所皮弁の方法と原理、効果を図示し説明できる。
4	皮弁、植皮を含む組織移植の基本事項を理解し、その種類と特徴、生着過程が説明できる。
5	顔面・四肢外傷の病態と診断、初期治療に関する基礎知識を説明できる。
6	熱傷の病態と診断、初期治療を含む診療手技と予後について説明できる。
7	瘢痕・肥厚性瘢痕・ケロイドの病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
8	難治性潰瘍の成因と病態と診断、基本的治療について説明できる。
9	先天異常の病態と診断、治療にかかわる基礎知識を説明できる。
10	代表的な皮膚良性腫瘍、母斑症、血管腫、血管奇形の病態と診断、基本的治療を説明できる。

11	代表的な皮膚悪性腫瘍の病態と診断、基本的治療を説明できる。
12	マイクロサージャリーの概要と応用範囲について説明できる。
13	がん医療における形成外科の役割について説明できる。
14	体表に病変を抱える患者さんやご家族に対する適切な接遇について説明できる。

・ 講義場所

講義：東1-D講義室

・ 講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号	事前事後学修/ICT
講義	5/1(金)	4	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	形成外科 概論	1,14	【事前学修】 形成外科総論について「標準形成外科学」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ形成外科の概念、および患者に対する配慮について150字程度にまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass
講義	5/8(金)	3	形成外科学講座	小野寺 文 助教	皮膚解剖と創傷治療、瘢痕・ケロイド	2,6,7,8	【事前学修】 皮膚の構造と創傷治療について「標準形成外科」「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass、クリッカー
講義	5/8(金)	4	形成外科学講座	小野寺 文 助教	形成外科における縫合、組織移植（植皮、皮弁）	3,4	【事前学修】 形成外科的縫合手技について「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上 【事後学修】 講義で学んだ形成外科的な縫合の要点について箇条書きにまとめる。所要時間 30分以上 【ICT】 WebClass、クリッカー

講義	5/15(金)	3	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	マイクロサージャリー	12,13	<p>【事前学修】 マイクロサージャリーについて「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/15(金)	4	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	がん医療と再建外科	11,12,13	<p>【事前学修】 再建外科について「標準形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/22(金)	3	形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授	顎顔面の発生・発育と先天異常（唇顎口蓋裂、耳、頭頸部など）	9,14	<p>【事前学修】 頭部顔面、頸部の先天異常について「標準形成外科（第3章先天異常）」「TEXT形成外科（各論Ⅰ先天性疾患Ⅰ頭頸部）」の項目を読んで各疾患の成因、治療方法についてまとめを作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について総合的に復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/22(金)	4	形成外科学講座	本多 孝之 特任准教授	顔面外傷	2,5,7,8,14	<p>【事前学修】 顔面外傷について「標準形成外科」「TEXT形成外科」「外傷形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について総合的に復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	5/29(金)	3	形成外科学講座	櫻庭 実 教授	良性腫瘍、母斑、血管腫、血管奇形、皮膚悪性腫瘍	10,11,14	<p>【事前学修】 皮膚腫瘍、母斑、血管腫について「標準形成外科」「TEXT形成外科」の教科書を読んで自分なりに説明文を作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について総合的に復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	5/29(金)	4	形成外科学講座	山崎 友和 助教 (任期付)	熱傷・難治性創傷	1,2,6,7,8	<p>【事前学修】 「標準形成外科（第4章外傷の熱傷・その他の外傷）（第6章難治性潰瘍・変性疾患・膠原病）」「TEXT形成外科（各論Ⅱ後天性疾患のⅣ熱傷・Ⅴ特殊な損傷・Ⅵ褥瘡・Ⅶ難治性潰瘍・感染創）」の各項目を読み、 ・熱傷の診断方法、治療方法（局所・全身管理）についてまとめを作成する。 ・難治性創傷が難治となる原因についてまとめを作成する。 所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。手指の発生、先天異常の分類について暗記する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

講義	6/19(金)	3	形成外科学講座	三橋 伸行 助教	四肢・体幹の先天異常、四肢外傷	5,9,14	<p>【事前学修】 四肢・体幹の先天異常について「標準形成外科」「TEXT形成外科」の教科書を読んで各疾患の成因、治療方法についてまとめを作成する。手の発生について一度暗記する。 四肢の外傷について、上記教科書に加え「手の外科の実際」「手外科診療ハンドブック」「外傷形成外科」を読んで初期治療の方法についてまとめを作成する。特に上肢、手、指の解剖について復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 講義で学んだ内容について復習し、事前学習で不足した部分を補充する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>
講義	6/19(金)	4	形成外科学講座	三橋 伸行 助教	試験に関わる形成外科学（+小テスト）	1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14	<p>【事前学修】 講義で学んだ内容、事前・事後の学習内容について復習する。所要時間 30分以上</p> <p>【事後学修】 理解の不足する部分を再度確認し、自分なりにまとめを作成する。所要時間 30分以上</p> <p>【ICT】 WebClass</p>

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	標準形成外科学 7版	平林慎一、鈴木茂彦 編	医学書院	2019
教科書	TEXT形成外科学 改訂3版	中塚貴志 他編	南山堂	2017
参考書	形成外科治療手技全書II 全7巻	波利井清紀、野崎幹弘 編	克誠堂出版	2016
参考書	形成外科診療プラクティス 形成外科医に必要な皮膚腫瘍の診断と治療	山本有平 他編	文光堂	2009
参考書	創傷のすべて	市岡滋 監修	克誠堂出版	2012
参考書	よくわかる子どものための形成外科	中島龍夫編	永井書店	2005
参考書	手の外科の実際 改訂7版	津下健哉 著	南江堂	2011
参考書	形成外科診療ガイドライン202年版	日本形成外科学会ほか 編	金原出版	2021
推薦図書	形成外科手術書改訂第5版 基礎編・実際編	鬼塚卓弥	南江堂	2018
推薦図書	Grabb's encyclopedia of flaps 4th ed.	Berish Strauch 他	LWW	2016
推薦図書	Plastic surgery 5th ed.	Peter C. Neligan	Saunders Elsevier	2024

・成績評価方法

【総括評価】

進級試験成績（100％）で評価し、100点満点の60点以上を合格とする。

【形成的評価】

小テストを実施して講義内容の理解度を確認し、その結果を学生にフィードバックする。
実習中の口頭試問および毎時間の実習内容等をまとめたポートフォリオを評価し、学生にフィードバックする。

到達目標	DP	中間試験	レポート	小テスト	定期試験	発表	その他	合計
1～14	1～8				100			100
合計					100			100

・特記事項・その他

*各講義時間内に、学生各班に課題を担当してもらい、ミニPBLを行う予定です。

シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前・事後学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。本科目では、事前事後学修以外に各回70分の自己学修を要す。
講義資料はWebclassで配信する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

大学病院等における医師の実務経験を有する教員が、専門領域に関する実践的な教育を、事例を交えて行う。

・教育資源

教科書・参考書、講義室、PC、インターネット環境、コンピューターソフトウェア、模擬骨モデルなど

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	デスクトップパソコン Lavie Direct DT	1	講義資料作成のため